

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目

数学(文系)

総括

試験時間	90分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	情報(社会) 400点, 教育 600点, 文・法 200点, 経済 500点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

文系としては計算量は多い。各問題とも柔軟さも必要とされる。

〈特記事項・トピックス〉

選択問題がなくなった。①は2008年度名大実戦の①と類似。

〈合格への学習対策〉

確率は重視されている(必須問題になって避けることはできない)。一問の配点が高いので、苦手分野のないように万遍なく学習しておくことが必要である。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
①	記述	B	ベクトル	$\triangle OAB$ は xy 平面にあるので C の z 座標が四面体の高さになることに注意する。	標準
②	記述	II	図形と方程式	120° に気づかないと面倒。図形をうまく分割して面積を求める。	標準
③	記述	A・B	確率・数列	複雑な状況を整理する。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。